

# 令和6年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔薬学部(薬学科)〕

プログラムの名称(和文)	薬学プログラム
(英文)	Program of Pharmaceutical Sciences
1. 取得できる学位 学士(薬学)	
2. 概要 薬学プログラムでは、人類の健康増進と福祉の実践者にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、専門職となるための基礎的知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮し得る人材を養成することを目標とする。具体的には、1) 病態・診断を理解でき、処方設計を判断し医薬品の適正使用に責任を持てる薬剤師としての能力を身につけるための基礎的知識ならびに基礎的技術の修得、2) 創造的な思考力を発揮し、自ら新しい問題に意欲的に取り組む能力を身につけるための応用技術の修得と体験学習、3) チーム医療の中で科学的観点から意見が言える専門性の高い薬剤師としての能力を身につけるための高度医療知識の修得、4) 臨床薬剤師としての倫理観の養成ならびにコミュニケーションスキル向上を目指した教育を行う。 卒業後は、専門薬剤師としての高度な知識と技能の習得ならびに医療人としての倫理観の醸成のための大学院に進学し、医療現場での実践的な薬剤師となるための医療機関での研修薬剤師、製薬企業での新薬開発にかかわる研究者、さらに地域住民から信頼される学校薬剤師などを含め福利厚生関係の官公庁などで活躍する人材を養成するための(高度に体系化された)プログラムである。	
3. ディプロマポリシー(学位授与の方針・プログラムの到達目標) 薬学プログラムでは、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生には、卒業が認定され、学士(薬学)の学位が授与されます。 1) 薬学を学ぶ上で必要な物理学、化学、生物学、数学および医療従事者のための心理学などの基本的能力ならびに幅広い教養を身につけている。 2) 医薬品および生体物質を含む化学物質の基本的な反応性を理解するために、代表的な反応、分離法、構造決定法などの基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。 3) 生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために生命体の構造や機能調節などに関する基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。 4) 医薬品の薬理作用の過程を理解するために、疾患に対する薬物の作用、作用機序および体内での運命に関する基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。 5) 薬物治療の基礎・応用知識を理解し、すべての臓器に関する主な疾患に対する標準的な薬物治療に関して説明できる。 6) 医薬品や化学物質のヒトへの影響、および生活環境や地球生態系と人類の健康に関する基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。 7) 社会において薬剤師が果たすべき責任、義務などを正しく理解するため、薬学、薬物に関する法律、制度、経済および薬局業務に関する基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。	

- 8) チームの一員として医療に参画するために、調剤、製剤、服薬説明、処方設計支援などの薬剤師業務に必要な基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。
- 9) 医療の担い手として求められる多様なニーズに柔軟に対応できる薬剤師として活躍するために、問題を発見し、その解決に向けた方向性を示すことができる。
- 10) 薬学・科学・医療の進歩に対応するために、新しい情報や知識を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けるために必要な基礎的な力を身につけている。
- 11) 次世代の薬剤師の育成を担うために、後進の指導の重要性を理解し、実践できる。

#### 4. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

##### 薬学プログラム

##### 教育課程の編成および教育課程における教育・学習方法に関する方針

薬学プログラムでは、そのディプロマ・ポリシーにおける11項目の能力をもち、豊かな人間性と幅広い教養を持った医療人を育成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- 1) 薬学を学ぶ上で必要な物理学、化学、生物学、数学および医療従事者のための心理学などの基本的能力ならびに幅広い教養を身につけるために、1・2年次では平和科目、大学教育基礎科目、領域科目、外国語科目、情報・データサイエンス科目、健康スポーツ科目、社会連携科目、基盤科目を全学実施体制のもとに講義科目として設置する。専門基礎科目としては、早期体験やコミュニケーション・ヒューマニズムに関する科目を設置し、参加型学習を行う。
- 2) 医薬品および生体物質を含む化学物質の基本的な性質を理解し、代表的な反応、分離法、構造決定法などに関する基本的な知識を身につけるために、物質の構造と性質、天然医薬資源に関連する科目（有機化学・分析化学など）を設置する。1・2年次においては専門基礎科目として、3年次ではより高度な内容を専門科目（生薬学・医薬品有機化学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後、知識に基づいた技能を身につけるために、2年次後期及び3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 3) 生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、生命体の構造や機能調節などに関する基本的な知識を身につけるために、生命体の構造と機能に関連する科目（生化学など）を1・2年次においては専門基礎科目として、3年次ではより高度な内容を専門科目（生理化学・細胞生物学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後、知識に基づいた技能を身につけるために、2年次後期及び3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 4) 医薬品の薬理作用の過程を理解し、疾患に対する薬物の作用、作用機序および体内での運命に関する基本的な知識を身につけるために、医薬品の作用や医薬品の体内動態に関する科目（薬理学・生物薬剤学など）を1・2年次においては専門基礎科目として、3年次ではより高度な内容を専門科目（薬物動態解析学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後、知識に基づいた技能や態度を身につけるために、3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 5) 薬物治療の基礎・応用知識を理解し、すべての臓器に関する主な疾患に対する標準的な薬物治療に関して説明できる知識を身につけるために、疾病と病態に係る講義科目（医療薬学・臨床薬物治療学など）を4年次に専門科目として設置する。また5・6年次には、**Problem based learning**（問題基盤型学習）形式のグループ学習科目（臨床薬理学など）を設置する。さらにより実践的な技能を身につけるために、4年次後期に事前実習科目を、5年次には臨床実習科目を設置する。そしてこれらを統合した能

力をさらに醸成するために、6年次に演習科目（日本薬局方演習）を設置する。

- 6) 医薬品や化学物質のヒトへの影響、および生活環境や地球生態系と人類の健康に関する基本的な知識を身につけるために、健康・環境に関する講義科目（衛生薬学など）を2・3年次に設置する。これらの知識に基づいた技能・態度を身につけるために、3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 7) 社会において薬剤師が果たすべき責任、義務などを正しく理解し、薬学、薬物に関する法律、制度、経済および薬局業務に関する基本的な知識を身につけるために、薬剤師業務や薬事関連法規に関する講義科目（薬事関係法規・薬剤経済学など）を4年次に設置する。より実践的な技能・態度を身につけるために、4年次後期に事前実習科目を、5年次には臨床実習科目を設置する。
- 8) 医療にチームの一員として参画するための、調剤、製剤、服薬説明などの薬剤師業務に必要な基本的な知識を身につけるために、製剤の調製と医薬品の管理に関する講義科目（製剤設計学・医薬品情報学など）を3・4年次に設置する。より実践的な技能・態度を身につけるために、4年次後期に事前実習科目を、5年次には臨床実習科目を設置する。
- 9) 医療の担い手として求められる多様なニーズに柔軟に対応できる薬剤師として活躍するために必須となる問題発見および解決能力を身につけるために、3年次前期に演習科目（薬学研究方法論演習）を、3年次後期及び4年次では基礎的な内容（基礎研究Ⅰ～Ⅱ）を、5・6年次ではさらに高度な内容（臨床研究Ⅰ～Ⅲ）を卒業研究科目として設置し、丁寧な個別指導を行う。
- 10) 薬学・科学・医療の進歩に対応できるように、新しい知識や情報、科学技術を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けるための必要な基礎的な力を身につけるために、1・2年次の外国語科目に加えて、2年次により専門性の高い外国語科目（薬学英语）を設置する。また3年次後期より研究室に配属して研究を行うための卒業研究科目（基礎研究Ⅰ～Ⅱ、臨床研究Ⅰ～Ⅲ）を設置し、丁寧な個別指導を行う。
- 11) 次世代の薬剤師の育成を担うために、後進の指導の重要性を理解し、実践できる能力を身につけるために、研究室の下級生の卒業研究のサポートができるように、環境を整える。

### 学習成果の評価の方針

学習成果の評価は、上記カリキュラム・ポリシー1)～11)の方針に基づき構築したカリキュラムの学習方法毎に適した方法を用いて行い、ディプロマ・ポリシーの達成を目指します。概要としては、講義科目では、筆記試験または筆記試験にレポート課題を加味して評価します。実験実習科目ではレポート課題や実習記録などを総合的に評価します。参加型学習やグループ学習科目では、討論の内容やプレゼンテーションの内容で評価します。演習科目では、筆記試験あるいはレポート、プレゼンテーションにより評価します。事前実習科目では筆記及び技能試験で評価します。臨床実習科目では実習記録やプレゼンテーションにより評価します。卒業研究科目は、別に定めるルーブリックにより評価します。

これらの成績評価に加え、薬学プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

体系的な学びを促進するために、研究室配属のために一定の基準を設けます。臨床実習科目を履修するために、共用試験を課し、共用試験を受験するために一定の基準を設けます。

### 5. 開始時期・受入条件

本プログラムの開始（選択）時期は、1年次からである。

### 6. 取得可能な資格

- a) 薬剤師国家試験受験資格
- b) 医療用具製造所・輸入販売営業所責任技術者、ごみ処理施設の技術管理者、騒音・粉塵・振動関係の公害防止管理者、建築物環境衛生管理技術者、水道技術管理者

## 7. 授業科目及び授業内容

授業科目は、別紙1の履修基準表を参照すること。

授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

## 8. 学習の成果

各学年で、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目による成績評価の平均値に基づき、入学してからのその学期までの学習の成果を示す。科目による成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を踏まえて算出した平均値を評価基準値として用いる。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80~89点)	3
B (良: 70~79点)	2
C (可: 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀 (Excellent)	3.00~4.00
優秀 (Very Good)	2.00~2.99
良好 (Good)	1.00~1.99

※ 別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※ 別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※ 別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

## 9. 卒業論文 (卒業研究) (位置づけ、配属方法、時期等)

### ○目的

薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。

6年次の12月中旬に卒業論文発表会を開催。

### ○概要

#### 1. 研究活動に求められる態度

将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。

#### 2. 研究活動を学ぶ

将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

#### 3. 未知との遭遇

研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。

### ○配属時期と配属方法

3年次後期より配属とする。配属方法と要件は別途定める。

## 10. 責任体制

(1) P D C A 責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

・計画・実施は薬学プログラム教員会 (主任名: 森岡徳光 (教務担当)) が行う。

- ・評価・改善は、学部長が担当委員会に諮問し、答申内容を尊重して学部長が実施する。

## (2) プログラムの評価

### ・プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果の評価の観点とする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習効果を成績評価、到達度評価、GPA などにに基づき判定する。社会的効果では、プログラムの社会的有効性を判定する。

### ・評価の実施方法（授業評価との関連も記載）

本プログラムでは、上記評価の観点に従い、6年次後期にプログラムの成果を評価する。同時にセメスター毎にプログラム改善アンケートを実施し、学生からの評価を加味して、毎年の評価を行う。

「教育的効果」については、本プログラムを学習した学生の成績評価、到達度評価、GPA などにに基づき総合的に評価する。

「社会的評価」については、プログラムの内容と密接に関連する病院、薬局、企業（医薬品など）、行政への就職率などを調べ、評価を行う。一定期間毎に、学生の主な就職先に本プログラムの評価を依頼する。さらに、卒業生にも自己評価および本プログラムの評価を依頼する。

### ・学生へのフィードバックの考え方とその方法

担当教員会は、一定期間毎に、学生へのアンケートやヒアリングを行い、プログラムを点検・評価するとともに、プログラムの年次報告書を教育本部教育質保証委員会に提出し、その結果を年次報告書として学士課程会議に提出する。また、学生の授業評価、プログラム評価等により、個々の授業科目についても点検・評価し、プログラムの改善に反映させる。これらの結果は、もみじを通して学生にフィードバックさせる。また、授業改善アンケートへの学生からのコメントについては、もみじの授業改善アンケートを通して授業毎にフィードバックさせる。

# 教養教育科目履修基準表

薬学部薬学科（薬学プログラム）

区分	科目区分		要修得 単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)																		
							1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次								
							前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後							
教 養 教 育 科 目	平和科目		2		2	必修			○																
	大 学 教 育 基 礎 科 目	大学教育入門		2	大学教育入門	2	必修	○																	
		教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○																	
		展開ゼミ		0	展開ゼミ	1	自由選択	○	○																
	領 域 科 目  (注9)			4	人文社会科学系科目群から	2	選択必修	○	○																
				4	自然科学系科目群から	2	選択必修		○																
	外 国 語 科 目	英語 (注2) (注3)	コミュニケーション演習	2	コミュニケーション演習Ⅰ	1	必修	○																	
				1	コミュニケーション演習Ⅱ	1			○																
			コミュニケーションⅠ	2	コミュニケーションⅠA	1	必修	○																	
				1	コミュニケーションⅠB	1			○																
			コミュニケーションⅡ	2	コミュニケーションⅡA	1	必修		○																
				1	コミュニケーションⅡB	1				○															
		初修外国語 (ドイツ語、フランス語、 中国語のうちから 1言語選択)(注4)(注5)		0	ベーシック外国語Ⅰ	1	自由選択	○																	
		ベーシック外国語Ⅱ	1			○																			
		ベーシック外国語Ⅲ	1					○																	
	ベーシック外国語Ⅳ	1						○																	
	情報・データサイエンス科目		2	情報・データ科学入門	2	必修	○																		
			2	情報・データサイエンス科目から	2	選択必修		○																	
	健康スポーツ科目		2		1又は2	選択必修	○	○																	
	社会連携科目		0		1又は2	自由選択	○	○																	
	基 盤 科 目			4	医療従事者のための心理学(注6)	2	必修		○																
					統計学	2			○																
				2	初修物理学(注7)	2	選択必修	○																	
					初修生物学(注8)	2		○																	
		4	種生物学	2	選択必修		○																		
			基礎微分積分学	2			○																		
			基礎線形代数学	2				○																	
			上記3科目から2科目					○																	
教養教育科目計		36																							

- 注1：記載している Semester は標準履修 Semester を表している。なお、当該 Semester で単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講する Semester が異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。
- 注2：要修得単位数を超えて修得した領域科目及び社会連携科目のうち、シラバスの使用言語欄が「E：英語」の科目の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に代えることが可能である。詳細は、学生便覧の教養教育の項を参照すること。
- 注3：自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に含めることも可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。
- 注4：初修外国語の4単位は卒業に必要な単位に含まれないが、履修することが望ましい。
- 注5：外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の外国語科目に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。
- 注6：1年次開設の「医療従事者のための心理学」を履修すること。なお、「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な単位(2単位)に算入することができる。
- 注7：大学入学共通テストにおいて物理を選択していない者は、「初修物理学」を履修すること。
- 注8：大学入学共通テストにおいて生物を選択していない者は、「初修生物学」を履修すること。
- 注9：領域科目(人文社会科学系科目群から)の4単位のうち2単位は「倫理学」を履修すること。

# 専門教育科目履修基準表

## 薬学部薬学科（薬学プログラム）

区分	科目区分	履修区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修指定	履修年次															
							1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次					
							前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
専門基礎科目	専	講	45	薬学英語	2	必修				②												
				薬学概論	2			②														
				一般化学	2		②															
				薬品分析科学	2			②														
				放射化学・放射線保健学	2				②													
				有機化学ⅠA	1		①															
				有機化学ⅠB	1		①															
				生化学Ⅰ	2				②													
				生化学Ⅱ	2				②													
				生化学Ⅲ	2					②												
				衛生薬学Ⅰ	2					②												
				薬用植物学・基礎漢方学	2						②											
				微生物学	2						②											
				衛生薬学Ⅱ	2						②											
				薬品物理化学	2						②											
				生体分析科学	2						②											
				天然物薬品構造化学	2						②											
				生化学Ⅳ	2						②											
				生物薬剤学	2							②										
				生化学Ⅴ	2								②									
有機化学ⅡA	1					①																
有機化学ⅡB	1					①																
薬理学Ⅰ	2							②														
機能形態学	2							②														
病理学概論	1										①											
専門基礎科目計				45			4	10	18	12			1									
育	専	演習	4	日本薬局方演習	2	必修												②				
				薬学研究方法論演習A	1					①												
				薬学研究方法論演習B	1					①												
				(2) 食品臨床評価学演習	2		自由選択						2									
			演習計				6						1	1	2				2			
			(2)	食品臨床評価学	2	自由選択								2								
			講	義	62	生薬学・臨床漢方学	2	必修					②									
						薬物動態解析学	2					②										
						生化学Ⅵ	2					②										
						生物物理化学	2					②										
						微生物薬品学	2					②										
						生理化学	2					②										
						有機化学Ⅲ	2					②										
						医薬品有機化学	2					②										
						薬理学Ⅱ	2						②									
製剤設計学	2										②											
細胞生物学	2											②										
遺伝子工学	2								②													
有機化学Ⅳ	2							②														
衛生薬学Ⅲ	2								②													
生物統計学	2								②													
薬理学Ⅲ	2							②														
薬理学Ⅳ	2								②													
医療薬学	2									②												
臨床医学概論Ⅰ	2									②												
臨床薬物治療学A	2									②												
免疫学概論	2									②												

区分	科目区分	履修区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修指定	履修年次													
							1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
							前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
専門教育科目	講義	62	臨床医学概論Ⅱ	2	必修										②					
			薬事関係法規	2							②									
			臨床薬理学A	2								②								
			臨床薬物治療学B	2								②								
			医薬品情報学	2									②							
			臨床医学概論Ⅲ	2									②							
			臨床薬理学B	2													②			
			臨床薬理学C	2													②			
			薬剤経済学	2									②							
			臨床評価学	2										②						
	講義計		64					2	6	14	12	16	10			4				
専門教育科目	実習	33	分析科学実習	1	必修				①											
			物理化学実習	1					①											
			有機化学実習	1					①											
			細胞分子生物学実習	1					①											
			生物化学実習	1					①											
			生薬学・薬用植物学実習	1						①										
			微生物薬品学実習	1							①									
			薬理学実習	1								①								
			薬剤学実習	1									①							
			衛生薬学実習	1										①						
			臨床事前実習	3												③				
			臨床実習A	10													⑩			
			臨床実習B	10													⑩			
				実習計			33					5	5			3		20		
卒業研究	10	基礎研究Ⅰ	2	必修							②									
		基礎研究Ⅱ	2								②									
		臨床研究Ⅰ	2													②				
		臨床研究Ⅱ	2													②				
		臨床研究Ⅲ	2													②				
	卒業研究計		10								4			6						
	専門科目計		113				2	11	20		48			32						
		154	専門教育科目計	158																

注 丸数字は必修科目を表す。

卒業要件	単位数
教養教育科目	36
専門教育科目	154
専門基礎科目	45
必修科目	45
専門科目	109
必修科目（演習）	4
自由選択科目（演習）	(2)
自由選択科目（講義）	(2)
必修科目（講義）	62
必修科目（実習）	33
必修科目（卒業研究）	10
合計	190

薬学プログラムにおける学習の成果  
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 幅広い教養ならびに自然科学及び社会科学についての基本的な知識と理解	1. 教養教育科目ならびに自然科学及び社会科学について、医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 教養教育科目ならびに自然科学及び社会科学について、分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 教養教育科目ならびに自然科学及び社会科学について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(2) 医薬品や無機・有機化合物の基本構造、物理的性質、反応性などの基本的知識と理解 ●資質④	1. 医薬品や無機・有機化合物の基本構造、物理的性質、反応性などについて、医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 医薬品や無機・有機化合物の基本構造、物理的性質、反応性などについて、分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 医薬品や無機・有機化合物の基本構造、物理的性質、反応性などについて説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(3) 生体のホメオスタシス（恒常性）の維持機構とダイナミックな調節機構に関する知識と理解 ●資質④	1. 生体のホメオスタシス（恒常性）の維持機構とダイナミックな調節機構について、医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 生体のホメオスタシス（恒常性）の維持機構とダイナミックな調節機構について、分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 生体のホメオスタシス（恒常性）の維持機構とダイナミックな調節機構について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(4) 様々な臓器に関する主な疾患に対する適切な薬物治療のための基本的知識と理解 ●資質⑦	1. 様々な臓器に関する主な疾患に対する適切な薬物治療について、医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 様々な臓器に関する主な疾患に対する適切な薬物治療について、分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 様々な臓器に関する主な疾患に対する適切な薬物治療について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(5) 生態系や生活環境の保全、維持するための環境汚染物質などの成因、ヒトへの影響に関する理解 ●資質⑩	1. 生態系や生活環境の保全、維持するための環境汚染物質などの成因、ヒトへの影響について、医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 生態系や生活環境の保全、維持するための環境汚染物質などの成因、ヒトへの影響について、分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 生態系や生活環境の保全、維持するための環境汚染物質などの成因、ヒトへの影響について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(6) 薬効や副作用を定量的に理解するための薬物動態の理論的解析に関する知識と理解 ●資質⑤, ⑦	1. 薬効や副作用を定量的に理解するための薬物動態の理論的解析について、医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬効や副作用を定量的に理解するための薬物動態の理論的解析について、分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬効や副作用を定量的に理解するための薬物動態の理論的解析について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(7) 医療チームと薬物治療などに関してコミュニケーションができる知識と理解 ●資質⑧, ⑨	1. 薬物治療などに関して他の医療スタッフとチーム医療の一員としてコミュニケーションできる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬物治療などに関して他の医療スタッフとコミュニケーションできる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬物治療などに関して他の医療スタッフに説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(8) 英語の読解力を高め、医療及び化学英語を習得する。	到達度は、所定の公式により、授業成績ならびにTOEICの平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	到達度は、所定の公式により、授業成績ならびにTOEICの平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	到達度は、所定の公式により、授業成績ならびにTOEICの平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(9) 基本的な医薬品の薬理作用を化学構造と関連づけて思考する能力 ●資質④	1. 基本的な医薬品の薬理作用を化学構造と関連づけて説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 基本的な医薬品の薬理作用と化学構造を列挙し、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 基本的な医薬品の薬理作用と化学構造に関する基本的事項を説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(10) 臨床検査値の異常から推測される主な疾患を挙げることができる能力・技能 ●資質⑤, ⑦	1. 臨床検査値の異常から推測される主な疾患を挙げ、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 臨床検査値の異常から推測される主な疾患に関する基本的事項を挙げ、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 臨床検査値の異常から推測される主な疾患に関する基本的事項を説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(11) 日々進歩する高度先端技術とその医療への活用に関する知識 ●資質⑥	1. 日々進歩する高度先端技術とその医療への活用について医療人としての立場から分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 日々進歩する高度先端技術とその医療への活用について分かり易く説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 日々進歩する高度先端技術とその医療への活用について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
能力・技能	(1) 薬物治療に必要な情報を自ら収集し、それを活用できる能力 ●資質⑤, ⑥, ⑦	1. 薬物治療に必要な情報を自ら収集し、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬物治療に必要な情報の基本的事項を挙げ、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬物治療に必要な情報の基本的事項について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(2) 化学物質の中毒量、標的器官、中毒症状、応急処置法、解毒法を検索できる ●資質⑩	1. 化学物質の中毒量、標的器官、中毒症状、応急処置法、解毒法を検索し、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 化学物質の中毒量、標的器官、中毒症状、応急処置法、解毒法を検索できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 化学物質の中毒量、標的器官、中毒症状、応急処置法、解毒法の検索方法について説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(3) 薬物の有害作用(副作用)軽減のための対処法を思考する能力・技能 ●資質④	1. 薬物の有害作用(副作用)軽減のための対処法を挙げ、解決策を構築できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬物の有害作用(副作用)軽減のための対処法を挙げ、解決策を説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬物の有害作用(副作用)軽減のための対処法に関する基本的事項を挙げ、説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(4) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析・解析をおこなうことができる。 ●資質④	1. 日本薬局方収載の代表的な医薬品について実験方法を立案し、分析・解析をおこなうことができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 日本薬局方収載の代表的な医薬品について、分析・解析をおこなうことができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 日本薬局方収載の代表的な医薬品について、分析できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
能力・技能	(5) 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を行い、品質管理を行うことができる。 ●資質④	1. 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法と品質管理について、実験方法を立案し、実施できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を行い、品質管理を行うことができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を行うことができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(6) 入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含め目的化合物への化学変換するための有機合成ができる。 ●資質④	1. 入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含め目的化合物への化学変換するための有機合成を立案し、合成できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含め目的化合物への化学変換するための有機合成ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含め目的化合物への化学変換するための有機合成の基本的な手技を行うことができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(7) 代表的な薬物の薬物血中濃度が測定できる能力・技能 ●資質⑦	1. 代表的な薬物の薬物血中濃度について、実験方法を立案し、測定できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 代表的な薬物の薬物血中濃度について、測定できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 代表的な薬物の薬物血中濃度について、基本的な手技を行うことができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(8) 医療チームと薬物治療などに関してコミュニケーションができる能力・技能 ●資質⑧, ⑨	1. 薬物治療などに関して他の医療スタッフとチーム医療の一員としてコミュニケーションできる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬物治療などに関して他の医療スタッフとコミュニケーションできる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬物治療などに関して他の医療スタッフに説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(9) 医薬品の配合禁忌や不適切な処方に対して、適切な対処ができる能力・技能 ●資質④	1. 医薬品の配合禁忌や不適切な処方に対して、適切な対処が自らできる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 医薬品の配合禁忌や不適切な処方に対して、適切な対処ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 医薬品の配合禁忌や不適切な処方に対しての適切な対処が説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
態度	(1) 医療人としての人格形成の自己向上力: 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動・態度。病んでいる人たちのみならず、医療チームの中で他の医療スタッフとコミュニケーションできる知識と理解 ●資質①, ②, ③, ⑧, ⑨	1. 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動や態度をとり、病んでいる人たちのみならず、医療チームの一員として患者や他の医療スタッフと適切なコミュニケーションを取ることができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動や態度をとり、病んでいる人たちのみならず、医療チームの一員として患者や他の医療スタッフとコミュニケーションを取ることができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動や態度をとり、病んでいる人たちのみならず、医療チームの一員として患者や他の医療スタッフとコミュニケーションを取る姿勢を身につけている。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(2) 常に患者の存在を念頭におき、医療チームのみならず国民からも信頼される薬剤師となるための能力 ●資質①, ②, ⑨	1. 常に患者の存在を念頭におき、医療チームのみならず国民からも信頼される薬剤師となるための行動をとることができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 常に患者の存在を念頭におき、医療チームのみならず国民からも信頼される薬剤師となるための行動をとるように努めることができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 常に患者の存在を念頭におき、医療チームのみならず国民からも信頼される薬剤師となるために必要な事項を説明できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
総合的な力	(1) 総括的問題解決力・教育力:地球上に存在する無数の化学物質の人類に対する影響などについて、分析・解析し、人類の存続に対する総括的な評価を行い、後進の指導ができる総合的な能力・技術 ●資質③, ④	1. 薬剤師・薬学研究者として、地球上に存在する無数の化学物質の人類に対する影響などについて、それらを分析・解析し、人類の存続に対する総括的な評価を行い、様々な問題の解決に積極的に取り組むことができ、後進の教育ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬剤師・薬学研究者として、地球上に存在する無数の化学物質の人類に対する影響などについて、それらを分析・解析し、人類の存続における様々な問題の解決に積極的に取り組むことができ、後進に指導ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬剤師・薬学研究者として、地球上に存在する無数の化学物質の人類に対する影響などについて、それらを分析・解析し、人類の存続における様々な問題の解決に取り組む姿勢を身につけており、後進に助言ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(2) 医療人としての人格形成の自己向上力:薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動・態度。病んでいる人たちのみならず、医療チームの中で他の医療スタッフとコミュニケーションできる能力・技術 ●資質①, ②, ③, ⑧, ⑨	1. 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動や態度をとり、病んでいる人たちのみならず、医療チームの一員として患者や他の医療スタッフと適切なコミュニケーションを取る事ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動や態度をとり、病んでいる人たちのみならず、医療チームの一員として患者や他の医療スタッフとコミュニケーションを取る事ができる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動や態度をとり、病んでいる人たちのみならず、医療チームの一員として患者や他の医療スタッフとコミュニケーションを取る姿勢を身につけている。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。
	(3) 研究力:薬剤師の職域での解決されるべき問題を選定し、問題解決のための方略および研究を遂行できる能力 ●資質④, ⑤, ⑦	1. 薬剤師の職域での解決されるべき問題を選定し、問題解決のための方略を自ら立案し、研究を遂行できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。80%以上を基準とする。	1. 薬剤師の職域での解決されるべき問題を選定し、問題解決のための方略および研究を遂行できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。70%以上を基準とする。	1. 薬剤師の職域での解決されるべき問題解決のための方略および研究を遂行できる。 2. 到達度は、所定の公式により、授業成績の平均評価点として計算される。60%以上を基準とする。

## 主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基礎づくりの役割を担い、医療人として必要な倫理観を涵養し、グローバル化に対応できる語学力を養成し、平和に関する関心を強化するように位置付けている。また、本プログラムの教養教育によって情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力や問題解決能力の醸成に役立つ事が期待される。これらを通し、豊かな人間性を育み、幅広い教養を身につける。

### ● 薬剤師として求められる基本的な資質

- ① プロフェッショナリズム
- ② 総合的に患者・生活者をみる姿勢
- ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- ④ 科学的探究
- ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力
- ⑥ 情報・科学技術を活かす能力
- ⑦ 薬物治療の実践的能力
- ⑧ コミュニケーション能力
- ⑨ 多職種連携能力
- ⑩ 社会における医療の役割の理解





薬学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年		5年		6年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
知識・理解	1. 幅広い教養ならびに自然科学及び社会科学についての基本的な知識と理解	教養科目のGPA 大学教育入門(◎) 領域科目(○) 一般化学(◎)	教養科目のGPA 領域科目(○) 薬学概論(◎)	平和科目(◎)	物理化学実習(◎)									
	2. 医薬品や無機・有機化合物の基本構造、物理的性質、反応性などの基本的知識と理解 ●資質④	基盤科目(○) 有機化学IA(◎) 有機化学IB(◎) 一般化学(◎)	基盤科目(○) 有機化学IIA(◎) 有機化学IIB(◎)	薬品物理化学(◎) 放射化学・放射線保健学(◎) 生体分析科学(◎) 天然物薬品構造化学(◎) 有機化学III(◎)	薬用植物学・基礎漢方学(◎) 物理化学実習(◎) 有機化学実習(◎) 有機化学IV(◎)	生物物理化学(◎) 医薬品有機化学(◎) 薬学研究方法論演習A(◎) 製剤設計学(◎) 生薬学・臨床漢方学(◎) 薬理学III(◎) 薬理学IV(◎)	基礎研究I(◎) 基礎研究II(◎)	薬事関係法規(◎)					日本薬局方演習(◎)	
	3. 生体のホメオスタシス(恒常性)の維持機構とダイナミックな調節機構に関する知識と理解 ●資質④	基盤科目(○)	基盤科目(○) 生化学I(◎) 生化学II(◎)	生化学III(◎) 生化学IV(◎)	薬理学I(◎) 生化学V(◎) 微生物学(◎) 薬用植物学・基礎漢方学(◎) 生化学VI(◎)	生理化学(◎) 微生物薬品学(◎) 微生物薬品学実習(◎)	細胞生物学(◎) 遺伝子工学(◎)	病理学概論(◎) 食品臨床評価学演習(△) 食品臨床評価学(△) 医療薬学(◎) 臨床医学概論I(◎) 免疫学概論(◎) 臨床薬物治療学B(◎)	臨床薬理学A(◎) 臨床医学概論II(◎) 臨床医学概論III(◎)				臨床薬理学B(◎) 臨床薬理学C(◎)	日本薬局方演習(◎)
	4. 様々な臓器に関する主な疾患に対する適切な薬物治療のための基本的知識と理解 ●資質⑦			機能形態学(◎)	薬用植物学・基礎漢方学(◎)	薬理学III(◎)	薬理学IV(◎)	病理学概論(◎) 臨床薬物治療学A(◎) 医療薬学(◎) 臨床医学概論I(◎) 免疫学概論(◎) 臨床薬物治療学B(◎)	臨床事前実習(◎) 臨床薬理学A(◎) 臨床医学概論II(◎) 臨床医学概論III(◎)				臨床薬理学B(◎) 臨床薬理学C(◎)	
	5. 生態系や生活環境の保全、維持するための環境汚染物質などの成因、ヒトへの影響に関する理解 ●資質⑩			衛生薬学I(◎) 衛生薬学II(◎)				薬事関係法規(◎)						
	6. 薬効や副作用を定量的に理解するための薬物動態の理論的解析に関する知識と理解 ●資質⑤, ⑦				薬理学I(◎) 生物薬剤学(◎) 薬用植物学・基礎漢方学(◎) 薬理学II(◎)	薬学研究方法論演習A(◎) 薬物動態解析学(◎) 薬用植物学・基礎漢方学(◎)	薬学研究方法論演習B(◎) 衛生薬学III(◎) 生物統計学(◎)	医療薬学(◎) 臨床医学概論I(◎) 臨床薬物治療学B(◎) 薬事関係法規(◎) 薬剤経済学(◎)	医薬品情報学(◎) 臨床薬理学A(◎) 臨床医学概論II(◎) 臨床医学概論III(◎)				臨床薬理学B(◎) 臨床薬理学C(◎)	
	7. 医療チームと薬物治療などに関してコミュニケーションができる知識と理解 ●資質⑧, ⑨		薬学概論(◎)					医療薬学(◎) 臨床医学概論I(◎) 薬事関係法規(◎) 臨床薬物治療学B(◎)	医薬品情報学(◎) 臨床薬理学A(◎) 臨床医学概論II(◎) 臨床医学概論III(◎)				臨床薬理学B(◎) 臨床薬理学C(◎)	
	8. 英語の読解力を高め、医療及び化学英語を習得する。	英語科目のGPA TOEIC コミュニケーション演習(◎)	英語科目のGPA コミュニケーション演習(◎) コミュニケーションII(◎)	英語科目のGPA	英語科目のGPA 薬学英語(◎)	薬理学III(◎)	薬理学IV(◎)		医薬品情報学(◎)					TOEIC
	9. 基本的な医薬品の薬理作用を化学構造と関連づけて思考する能力 ●資質④				薬理学I(◎) 薬用植物学・基礎漢方学(◎) 分析科学実習(◎) 薬理学II(◎)	薬学研究方法論演習A(◎) 微生物薬品学(◎) 微生物薬品学実習(◎)	薬学研究方法論演習B(◎) 薬理学IV(◎)	医療薬学(◎) 臨床医学概論I(◎) 臨床薬物治療学B(◎)	臨床薬理学A(◎) 臨床医学概論II(◎) 臨床医学概論III(◎)				臨床薬理学B(◎) 臨床薬理学C(◎)	日本薬局方演習(◎)
	10. 臨床検査値の異常から推測される主な疾患を挙げることができる能力・技能 ●資質⑤, ⑦					薬理学III(◎)	薬理学IV(◎)	臨床薬物治療学A(◎) 食品臨床評価学演習(△) 食品臨床評価学(△) 医療薬学(◎) 臨床医学概論I(◎) 臨床薬物治療学B(◎)	臨床薬理学A(◎) 臨床医学概論II(◎) 臨床医学概論III(◎)				臨床薬理学B(◎) 臨床薬理学C(◎)	日本薬局方演習(◎)
	11. 日々進歩する高度先端技術とその医療への活用に関する知識 ●資質⑥		薬学概論(◎)					基礎研究I(◎) 基礎研究II(◎)					臨床研究I(◎) 臨床研究II(◎) 臨床研究III(◎)	

薬学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年		5年		6年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
能力・技能	1. 薬物治療に必要な情報を自ら収集し、それを活用できる能力 ●資質⑤, ⑥, ⑦		情報・データサイエンス科目(◎○)	情報・データサイエンス科目(◎○)	薬理学Ⅰ(◎)	薬学研究方法論演習A(◎)	基礎研究Ⅰ(◎)		臨床研究Ⅰ(◎)				
			薬学概論(◎)	微生物学(◎)	微生物薬品学(◎)	基礎研究Ⅱ(◎)		臨床研究Ⅱ(◎)					
				薬理学Ⅱ(◎)	薬理学Ⅲ(◎)	薬学研究方法論演習B(◎)	薬剤経済学(◎)	医薬品情報学(◎)	臨床研究Ⅲ(◎)				
						薬理学Ⅳ(◎)		臨床事前実習(◎)					
								臨床評価学(◎)					
	2. 化学物質の中毒量, 標的器官, 中毒症状, 応急処置法, 解毒法を検索できる。 ●資質⑩				薬理学Ⅰ(◎)			食品臨床評価学演習(△)					
								臨床薬物治療学A(◎)					
	3. 薬物の有害作用(副作用)軽減のための対処法を思考する能力・技能 ●資質④		薬学概論(◎)		生物薬剤学(◎)	薬物動態解析学(◎)	生物統計学(◎)	臨床薬物治療学A(◎)					
					薬理学Ⅱ(◎)	微生物薬品学(◎)							
4. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析・解析をおこなうことができる。 ●資質④		薬品分析科学(◎)	放射化学・放射線保健学(◎)	生物化学実習(◎)	生薬学・薬用植物学実習(◎)		薬事関係法規(◎)			日本薬局方演習(◎)			
			生体分析科学(◎)		微生物薬品学実習(◎)								
5. 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を行い, 品質管理を行うことができる。 ●資質④							薬事関係法規(◎)	臨床事前実習(◎)			日本薬局方演習(◎)		
6. 入手容易な化合物を出発物質として, 医薬品を含め目的化合物への化学変換するための有機合成ができる。 ●資質④		有機化学ⅠA(◎)	有機化学ⅡA(◎)	有機化学Ⅲ(◎)	有機化学実習(◎)	薬学研究方法論演習A(◎)	基礎研究Ⅰ(◎)						
		有機化学ⅠB(◎)	有機化学ⅡB(◎)		有機化学Ⅳ(◎)		基礎研究Ⅱ(◎)						
						薬学研究方法論演習B(◎)							
7. 代表的な薬物の薬物血中濃度が測定できる能力・技能 ●資質⑦						薬学研究方法論演習A(◎)	基礎研究Ⅰ(◎)		臨床研究Ⅰ(◎)				
						薬剤学実習(◎)	基礎研究Ⅱ(◎)		臨床研究Ⅱ(◎)				
						薬理学実習(◎)	薬学研究方法論演習B(◎)	医療薬学(◎)	臨床薬理学A(◎)	臨床研究Ⅲ(◎)			
								臨床医学概論Ⅰ(◎)	臨床医学概論Ⅱ(◎)	臨床薬理学B(◎)			
								臨床薬物治療学B(◎)	臨床医学概論Ⅲ(◎)	臨床薬理学C(◎)			
8. 医療チームと薬物治療などに関してコミュニケーションができる能力・技能 ●資質⑧, ⑨		コミュニケーション演習(◎)	コミュニケーション演習(◎)	薬学英語(◎)			医療薬学(◎)	臨床事前実習(◎)			臨床薬理学B(◎)		
		コミュニケーションⅠ(◎)	コミュニケーションⅡ(◎)				臨床医学概論Ⅰ(◎)	臨床薬理学A(◎)			臨床薬理学C(◎)		
			薬学概論(◎)				臨床薬物治療学B(◎)	臨床医学概論Ⅱ(◎)					
								臨床医学概論Ⅲ(◎)					
9. 医薬品の配合禁忌や不適切な処方に対して, 適切な対処ができる能力・技能 ●資質④				薬用植物学・基礎漢方学(◎)			医療薬学(◎)	臨床事前実習(◎)	臨床実習A(◎)	臨床薬理学B(◎)			
							臨床医学概論Ⅰ(◎)	臨床薬理学A(◎)	臨床実習B(◎)	臨床薬理学C(◎)			
							臨床薬物治療学B(◎)	臨床医学概論Ⅱ(◎)					
							臨床薬物治療学A(◎)	臨床医学概論Ⅲ(◎)					
態度		1. 医療人としての人格形成の自己向上力: 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し, それに相応しい行動・態度。病んでいる人たちのみならず, 医療チームの中で他の医療スタッフとコミュニケーションできる知識と理解 ●資質①, ②, ③, ⑧, ⑨		教養ゼミ(◎)	健康スポーツ科目(○)			医療薬学(◎)	臨床事前実習(◎)	臨床実習A(◎)	臨床薬理学B(◎)		
		情報・データサイエンス科目(◎○)	情報・データサイエンス科目(◎○)	健康スポーツ科目(○)	社会連携科目(△)			臨床医学概論Ⅰ(◎)	臨床薬理学A(◎)	臨床実習B(◎)	臨床薬理学C(◎)		
		大学教育入門(◎)	薬学概論(◎)				臨床薬物治療学B(◎)	臨床医学概論Ⅱ(◎)					
		社会連携科目(△)					薬事関係法規(◎)	臨床医学概論Ⅲ(◎)					
2. 常に患者の存在を念頭におき, 医療チームのみならず国民からも信頼される薬剤師となるための能力 ●資質①, ②, ⑨		教養ゼミ(◎)	健康スポーツ科目(○)				医療薬学(◎)	臨床事前実習(◎)	臨床実習A(◎)	臨床薬理学B(◎)			
		情報・データサイエンス科目(◎○)	情報・データサイエンス科目(◎○)				臨床医学概論Ⅰ(◎)	臨床薬理学A(◎)	臨床実習B(◎)	臨床薬理学C(◎)			
		健康スポーツ科目(○)	社会連携科目(△)				臨床薬物治療学B(◎)	臨床医学概論Ⅱ(◎)					
		大学教育入門(◎)	薬学概論(◎)					臨床医学概論Ⅲ(◎)					
		社会連携科目(△)											

薬学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年		5年		6年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
総合的な 力	1. 総括的問題解決力・教育力: 地球上に存在する無数の化学 物質の人類に対する影響など について、分析・解析し、人類の 存続に対する総括的な評価を 行い、後進の指導ができる総合 的な能力・技術 ●資質③, ④	教養ゼミ(◎)	社会連携科目(△)			薬学研究方法論演習A(◎)	基礎研究Ⅰ(◎)				臨床研究Ⅰ(◎)		
		大学教育入門(◎)	薬学概論(◎)				基礎研究Ⅱ(◎)				臨床研究Ⅱ(◎)		
		社会連携科目(△)				薬学研究方法論演習B(◎)					臨床研究Ⅲ(◎)		
	2. 医療人としての人格形成の 自己向上力:薬剤師はヒトの生 命にかかわる職業人であること を自覚し、それに相応しい行動・ 態度。病んでいる人たちのみ ならず、医療チームの中で他の医 療スタッフとコミュニケーションで きる能力・技術 ●資質①, ②, ③, ⑧, ⑨	教養ゼミ(◎)	社会連携科目(△)							臨床事前実習(◎)	臨床実習A(◎)		
		情報・データサイエンス科目(◎○)	情報・データサイエンス科目(◎○)								臨床実習B(◎)		
		大学教育入門(◎)	薬学概論(◎)										
	3. 研究力:薬剤師の職域での 解決されるべき問題を選定し、 問題解決のための方略および 研究を遂行できる能力 ●資質④, ⑤, ⑦	教養ゼミ(◎)	社会連携科目(△)	放射化学・放射線保健学(◎)	細胞分子生物学実習(◎)	薬学研究方法論演習A(◎)	基礎研究Ⅰ(◎)					臨床研究Ⅰ(◎)	
		情報・データサイエンス科目(◎○)	情報・データサイエンス科目(◎○)			衛生薬学実習(◎)	基礎研究Ⅱ(◎)					臨床研究Ⅱ(◎)	
		大学教育入門(◎)	薬学概論(◎)			微生物薬品学実習(◎)	薬学研究方法論演習B(◎)					臨床研究Ⅲ(◎)	

教養科目 専門基礎科目 専門科目 卒業研究 臨床実習 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)自由選択科目

- 薬剤師として求められる基本的な資質
- ① プロフェッショナリズム
- ② 総合的に患者・生活者を見る姿勢
- ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- ④ 科学的探究
- ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力
- ⑥ 情報・科学技術を活かす能力
- ⑦ 薬物治療の実践的能力
- ⑧ コミュニケーション能力
- ⑨ 多職種連携能力
- ⑩ 社会における医療の役割の理解

入学時にプログラムを選択（薬学部薬学科生）

第1ステップ

教養教育  
選択必修：  
☞履修表

教養ゼミ・早期体験  
実習  
必修：  
☞履修表

コミュニケーション・  
ヒューマニズム  
必修：☞履修表

第2ステップ

物質の構造と性質  
必修：  
☞履修表

天然医薬資源  
必修：  
☞履修表

生体の構造と機能  
必修：  
☞履修表

第3ステップ

医薬品の作用  
必修：  
☞履修表

疾病と病態  
必修：  
☞履修表

薬剤師業務  
必修：  
☞履修表

薬事関連法規  
必修：  
☞履修表

医薬品の体内動態  
必修：  
☞履修表

製剤の調製と医薬品の管理  
必修：  
☞履修表

健康・環境  
必修：  
☞履修表

実習  
必修：  
☞履修表

必修科目で未取得科目がある場合は、第4ステップに進級できない。

第4ステップ

臨床事前実習  
必修：☞履修表

共用試験（合格者）  
必須

臨床実習A/B  
必修：☞履修表

第5ステップ

研究方法論演習  
必修：☞履修表

卒業研究  
必修：☞履修表

疾病と病態  
必修：☞履修表

卒業要件：薬学プログラム修了

薬学部薬学科卒業 学士（薬学）

## 薬学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
長瀬 健一	教授	5323	薬3 F 東	
内田 康雄	教授	5315	薬4 F 西	yuchida@hiroshima-u. ac. jp
熊本 卓哉	教授	5184	薬1 F 東	tkum632@hiroshima-u. ac. jp
田原 栄俊	教授	5290	薬5 F 西	toshi@hiroshima-u. ac. jp
紙谷 浩之	教授	5300	総4 F	hirokam@hiroshima-u. ac. jp
松浪 勝義	教授	5335	薬6 F 西	matunami@hiroshima-u. ac. jp
小澤 孝一郎	教授	5332	薬6 F 東	ozawak@hiroshima-u. ac. jp
黒田 照夫	教授	5655	薬3 F 西	tkuroda@hiroshima-u. ac. jp
森岡 徳光	教授	5310	薬8 F 西	mnori@hiroshima-u. ac. jp
松尾 裕彰	教授	5570	病1 F	hmatsuo@hiroshima-u. ac. jp
古武 弥一郎	教授	5326	薬8 F 東	yaichiro@hiroshima-u. ac. jp
野村 渉	教授	5308	薬7 F 西	wnomura@hiroshima-u. ac. jp
熊谷 孝則	准教授	5282	薬3 F 西	tkuma@hiroshima-u. ac. jp
横大路 智治	准教授	5295	薬4 F 東	yokooji@hiroshima-u. ac. jp
猪川 和朗	准教授	5296	総4 F	ikawak@hiroshima-u. ac. jp
河合 秀彦	准教授	5301	総4 F	kawaih@hiroshima-u. ac. jp
高橋 陵宇	准教授	5292	薬5 F 西	rytakaha@hiroshima-u. ac. jp
柳瀬 雄輝	准教授	5338	薬6 F 東	yyanase@hiroshima-u. ac. jp
木下 恵美子	助教	5281	薬3 F 東	kikuta@hiroshima-u. ac. jp

※研究室 薬：薬学研究棟 総：総合研究棟 病：広島大学病院 A：研究棟A

※「082-257-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

## 薬学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
川見 昌史	助教	5316	薬4 F 西	ma-kawami@hiroshima-u.ac.jp
濁川 清美	助教	5307	薬7 F 西	knigo@hiroshima-u.ac.jp
鈴木 哲矢	助教	5301	総4 F	suzukite@hiroshima-u.ac.jp
吉井 美智子	助教	5339	薬6 F 東	ymichik@hiroshima-u.ac.jp
中島 一恵	助教	5311	薬8 F 西	hisaokak@hiroshima-u.ac.jp
池田 佳代	助教	5339	薬6 F 東	ikedai@hiroshima-u.ac.jp
埴越 崇範	助教	5574	病1 F	taogo@hiroshima-u.ac.jp
中嶋 龍	助教	5321	薬1 F 東	nakajima@hiroshima-u.ac.jp
森田 大地	助教	5283	薬3 F 西	dmorita@hiroshima-u.ac.jp
中村 庸輝	助教	5312	薬8 F 西	nakayoki@hiroshima-u.ac.jp
山本 佑樹	特任助教	5291	薬5 F 西	yyamamoto@hiroshima-u.ac.jp
白井 孝宏	助教	5324	薬1 F 東	tshirai@hiroshima-u.ac.jp
松本 大亮	助教	5305	薬7 F 西	dmatsumo@hiroshima-u.ac.jp
宮良 正嗣	助教	5326	薬8 F 東	miyara128@hiroshima-u.ac.jp
荻野 龍平	助教	5297	薬4 F 東	ryogino@hiroshima-u.ac.jp
大黒 亜美	助教	5327	総3 F	aoguro@hiroshima-u.ac.jp

※研究室 薬：薬学研究棟 総：総合研究棟 病：広島大学病院 A：研究棟A

※「082-257-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。